

2017年度ヤング・ポートフォリオ

Young Portfolio Acquisitions 2017

会期：2018年3月31日(土)～6月10日(日)

選考委員：クー・ボンチャン(韓国)、上田義彦、細江英公(館長)

東欧からアジア、日本まで、160点を一堂に展示

ヤング・ポートフォリオとは、世界の若手写真家を支援するために、彼らの「原点」となる貴重な初期作品を購入し、後世に残す活動。毎年一度、同名の公募を行っている。



アレクサンドル・エゴロフ Alexander YEGOROV (ロシア、1987)

《眠りの精(1)》2012年 (原題はSandman、子どもの目に砂をまいて眠気を催させるの意)

■2017年度ヤング・ポートフォリオ（以下YP2017）の見どころ

●過去のYPにて収蔵した作品も同時展示

「YP2017」にて作品を収蔵した作家全27人のうち、9人が、過去のYPでも作品を収蔵しています。彼らがどのようにシリーズを発展させ、また視線を深めているのかをご覧ください。過去のYP収蔵作品も同時に展示いたします。最新作とあわせてご覧ください。

過去のYPでも作品収蔵した作家：K.M.アサド/チョン・コクユウ/林典子/ムーチェン・ホー/ジーヨン・イ/プラシャンタ・クマール・サハ/坂口真理子/山口雄太郎/ピョートル・ズビエルスキ

●YP2016に引き続き迎えた外国人選考委員：クー・ボンチャン氏（韓国）

YP2016では、台湾を代表する写真家・張照堂氏を選考委員にお迎えし、昨年5月の「YP公開レセプション+アーティスト・トーク」には、アジアの隣国、韓国、台湾をはじめ、ロシアやポーランドなど、これまでで最も多くの外国人作家が来館しました。

YP2017では、韓国を代表する写真家クー・ボンチャン氏をお迎えしました。その影響も大きく、台湾や韓国などからの応募作品数も増え、今年は初めて、作品を収蔵した全27人のうち15人が海外作家となりました。

右：選考風景。左から上田義彦氏、クー・ボンチャン氏、細江英公（館長）



■クー・ボンチャン（韓国、1953）

韓国を代表する写真家。大学にて経営学を学ぶも、卒業後ドイツへ留学し、写真を学ぶ。代表作に“Portraits of Time” “Masks” “Good-bye Paradise”など。思索的なモチーフを繊細な感覚で表現する作家として、世界的評価を得ている。最新作に、世界に散逸した白磁(朝鮮文化を代表する陶磁)を撮り下ろした『白磁 - Vessel』、「花」などがある。

■上田義彦（日本、1957）

日本を代表する広告写真家として内外の広告賞を多数受賞。同時に作家活動を行い、その作品群は国内外から高い評価を得ている。2011年より2018年まで「Gallery 916」を主宰し、企画、展示、出版をトータルでプロデュース。人物、花、家族、標本、原生林など幅広い被写体を撮影してきた35年間の写真家活動の集大成として、2015年に『A Life with Camera』を上梓した。

■細江英公（日本、1933）

三島由紀夫を被写体とした「薔薇刑」(1963)など、特異な被写体との関係性から紡ぎ出された物語性の高い作品により戦後写真の転換期における中心的な存在となる。東京工芸大学名誉教授。1995年より当館館長。2003年、「生涯にわたり写真芸術に多大な貢献をした写真家」として英国王立写真協会より創立150周年記念特別勲章を受章したほか、2010年、文化功労者。2017年、写真家として初めて生前に旭日重光章を受章した。

同時展示

●選考委員の初期作品各5点（全15点）を同時に展示いたします。

■2017年度ヤング・ポートフォリオ（第23回）データ

選考委員：クー・ボンチャン（韓国）、上田義彦、細江英公(館長)

作品募集期間：2017年4月15日～5月15日

応募者数：244人（世界28カ国より）

応募点数：5818点

購入者数：27人(国内12人・海外15人/11カ国)

日本/バングラデシュ/フランス/マレーシア/台湾/韓国/イギリス/香港/タイ/ポーランド/ロシア

購入点数：160点（全作品を展示いたします）

●1995年度から2017年度までに作品を収蔵した作家の総数：773人（45カ国）5,974点

■作品購入作家★は過去にもヤング・ポートフォリオで作品を収蔵した作家

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 ■青木秀平（日本、1989） | 15■ブラシャント・クマール・サハ（バングラデシュ、1983）★ |
| 2 ■K.M. アサド（バングラデシュ、1983）★ | 16■坂口真理子（日本、1987）★ |
| 3 ■ガエル・ボヌフォン（フランス、1982） | 17■関根大樹（日本、1982） |
| 4 ■チョン・コクウウ（マレーシア、1988）★ | 18■塩田亮吾（日本、1983） |
| 5 ■遠藤未奈子（日本、1989） | 19■ソン・テワン（韓国、1988） |
| 6 ■林典子（日本、1983）★ | 20■ハリ・シーカオ（タイ、1995） |
| 7 ■ムーチェン・ホー（台湾、1987）★ | 21■田村正義（日本、1984） |
| 8 ■チャン・ユージン（韓国、1983） | 22■山口雄太郎（日本、1987）★ |
| 9 ■シンウク・キム（日本、1982） | 23■山元彩香（日本、1983） |
| 10■ジーヨン・イ（韓国、1983）★ | 24■山本雅紀（日本、1989） |
| 11■リン・チュンヤオ（台湾、1992） | 25■アレクサンドル・エゴロフ（ロシア、1987） |
| 12■デレク・マン（イギリス/香港、1988） | 26■サンヒュク・ユン（韓国、1983） |
| 13■宮田裕介（台湾、1985） | 27■ピョートル・ズビエルスキ（ポーランド、1987）★ |
| 14■岡田一顕（日本、1987） | |

<選考委員の言葉より>

■YP作品に見える“時代”・・・YP2017選考委員・上田義彦

「これだけの多くの作家の写真を見ていると、グローバルと言われている中でも、それぞれの国に独自の時代があるというふうに感じました。時間が経てば、それが「時代」と言っているのだと思います。社会的に大きなテーマであろうと、個人的なものを撮っていようと、それぞれの環境や状況に写真が真正面から対峙していれば、そこには時代が写っているんだなと思います。」

■YP世代（35歳まで）の技法的特徴について・・・YP2017選考委員 クー・ボンチャン

「韓国では今、デジタルカメラとフォトショップが非常に流行っていて、力のある写真がどんどん減ってきています。パソコンでコラージュしたり、画像処理することが一般的な時代です。ところが、YPに応募している作家たちは、カメラで表現することが出来る。イメージで何かを語ろうとしていたことが、すごくありがたいと感じましたし、これからもこういう作家たちがずっと残って行って欲しいと思います。」

■YP選考委員が全員写真家であること・・・YP2017選考委員・上田義彦

「僕は、写真家が写真を選ぶことは、とても重要だと思う。ものを見て、直面して、肌で、身体で撮っている人間が選ぶ写真と、批評家が選ぶ写真とは違ってくると思うんです。今回、かなり強く僕の中に残っている写真があって、応援したいな、今後ずっと見ていたいと思う人たちが複数人います。今回選考に参加できて、すごく嬉しかったです。」

■開催概要

展覧会名：2017年度ヤング・ポートフォリオ

会 期：2018年3月31日(土)～6月10日(日)

休 館 日：毎週火曜日、但し5月1日(火)は開館、3月30日(金)までは冬期休館

会 場：清里フォトアートミュージアム

開館時間：10：00～18：00（入館は17:30まで）

入館料： 友の会・会員 無料 一般800円（600円） 学生600円（400円） 中・高生400円（200円）

（ ）内は20名様以上の団体料金 家族割引1200円（2名～6名様まで）

交通のご案内 車にて：中央自動車道須玉I.C.または長坂I.C.より車で約20分

J R：中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え 清里駅下車、車で約10分

清里フォトアートミュージアム (K・MoPA)は、1995年に開館した写真の美術館です。当館の活動の中で、最も重点を置いているのが**ヤング・ポートフォリオ(YP)**です。毎年35歳以下を対象に公募を行い、選考ののち、優れた作品を当館のパーマネント・コレクションとして購入することによって世界の若手作家を支援する活動です。通常、コンテストの入賞は1度限りですが、YPは、表現意欲の高い作品を35歳まで何度も公募し、成長を見守ります。作家の世界観や芸術性を表現するポートフォリオ（作品集）となるように、一枚だけでなく複数の作品を収蔵することが特徴です。YPは、若者の才能の真価を世に問い、後世に伝える、世界で唯一の活動です。

YPデータベース公開中

収蔵作品画像のほか、作家略歴、アーティスト・ステートメントを掲載しています。作家名、収蔵年、国籍などで検索することができます。過去20年にわたる世界の若手写真家の作品を、様々な調査・研究の対象としてもご利用いただければ幸いです。

当館のウェブサイトwww.kmopa.com ▶ YOUNG PORTFOLIO ▶ YPデータベースへ

■YP2017公開レセプション& アーティスト・トーク

5月19日(土) 午後2時～4時

講評：クー・ボンチャン、上田義彦、細江英公（館長）

入館料のみ / 定員なし / 要予約 / どなたでもご参加いただけます

会場：清里フォトアートミュージアム

当日出席する作家に作品永久保存証書を授与した後、作家自身によるトークと、3人の選考委員による講評を行います。若手写真家にとっては、第一線で活躍する選考委員から直接講評を受けられる貴重な機会となります。

写真左：YP2016(昨年)の公開レセプションでの集合写真

写真右：収蔵された作品について語るイーダ・ターヴィツァイネン氏（フィンランド）





清里フォトアートミュージアム収蔵作品展：原点を、永遠に。—2018—

巨匠から現代まで、芸術における青年期の意義を問う

19世紀～21世紀の“ヤング・ポートフォリオ”

<東京展>本展では、若者の支援に注力するK・MoPAが、19世紀以降の著名作家、第二次世界大戦以後の日本を代表する作家から、2016年のヤング・ポートフォリオ収蔵作家に至るまで、約1万点の収蔵作品から厳選した409点の写真を一堂に公開します。テーマは「35歳までに撮影された作品」であること。後世に残る名作が、20代、30代に生まれていることに注目ください。同一作品による展示替えも見どころのひとつです。

*本展は、2018年6月、国立台湾美術館にて巡回展を行います。

会期：2018年3月24日（土）～5月13日（日） 前期<歴史篇>：3月24日～4月15日

後期<作家篇>：4月17日～5月13日

会場：東京都写真美術館 地下1階展示室

開館時間：10:00～18:00(ただし木・金は20:00まで)

休館日：毎週月曜日（4月30日は開館）

*入館は閉館の30分前まで

観覧料：無料 主催：清里フォトアートミュージアム

共催：東京都写真美術館

YP2018作品募集

2018年度ヤング・ポートフォリオ(第24回)

今できる限りのものを見せてほしい。

今の挑戦が未来のあなたを強くする。

2018年度選考委員：川田喜久治、上田義彦、細江英公(館長)

●Web登録受付期間 & 応募作品受付期間：2018年4月15日～5月15日

●応募要項の概要・応募資格は35歳までを上限とします。（1983年1月1日以降に生まれた方）

- ・既発表・未発表を問いません。他のコンテストへの応募作品・受賞作品も応募可能です。
- ・作品の表現、技法は問いませんが、永久コレクションのため、長期保存が可能な技法であること。
- ・選考された作品は、1点につき3万円以上で購入します。

●詳しい応募要項は：www.kmopa.com/yp_entry

お問い合わせ

●内容や掲載用画像データにつきましては、事務長・小川 ogawa@kmopa.com

広報・前島 maeshima@kmopa.comが承ります。 Tel: 0551-48-5598

ホームページ <http://www.kmopa.com>

ツイッター <https://www.twitter.com/kmopa>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kmopa>

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545-1222 清里フォトアートミュージアム

Tel: 0551-48-5599 (代表) Fax: 0551-48-5445 Email: info@kmopa.com

■ YP2017収蔵作品より



←1

→5

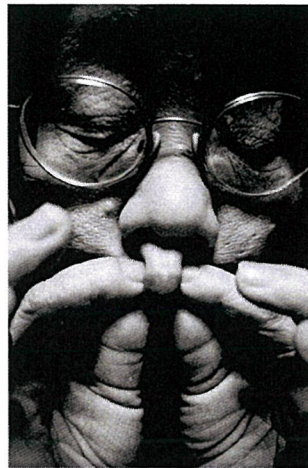


→7



←2

→6



→8



←3

←4



- ❶ K.M. アサド (バングラデシュ、1983) 《バングラデシュのロヒンギャ難民》2012
- ❷ チャン・ユージン (韓国、1983) 《部屋着》2011
- ❸ リン・チュンヤオ (台湾、1983) 《わたしは家に帰ります》2014
- ❹ ジーヨン・イ (韓国、1983) 《失恋》2011

❺ デレク・マン (イギリス/香港、1988) 《シャンクリン保守派クラブ、ワイト島(ダウジー)》2016

❻ 山本雅紀 (日本、1989) 《我が家》2016

❼ 山元彩香 (日本、1983) 《Untitled from the series Nous n'irons plus au bois (無題「もう森へは行かない」シリーズより)》2012

❽ ピョートル・ズビエルスキ (ポーランド、1987) 《無題「白い象」シリーズより》2010